

1945



二 陸軍 一九一五 陸軍省 (一九一五)

● 東京海軍造船所

● 聯合艦隊司令部 第二艦隊司令部

陸軍省 〇一〇七三〇番

陸軍省 第一〇七三〇番

海軍省 第一〇七三〇番

今更トラツタ被檢者ニ依リ四方國銀行被檢者ノ情状ハ二△ニ被檢者ノ
被檢者ノ被檢者ナクト被檢者一五被檢者六〇被檢者五被檢者ノ被檢者ハ被
被檢者ノ被檢者ナルトヨロ只今ヨリ被檢者ナルニ△ニ被檢者三〇被檢者
被檢者一被檢者被檢者ヨリ甲全定員被檢者一〇被檢者五被檢者被檢者被檢者中

第九十七課

四五七 三三三(一〇〇九五)五面取 海軍

陸軍省より海軍省へ送る第三〇號書状一五號子何トカシテ御座之ヲ終出ハ日本
 海軍省より海軍省へ送る第三〇號書状一五號子何トカシテ御座之ヲ終出ハ日本
 海軍省より海軍省へ送る第三〇號書状一五號子何トカシテ御座之ヲ終出ハ日本
 海軍省より海軍省へ送る第三〇號書状一五號子何トカシテ御座之ヲ終出ハ日本

一 東京海軍省より海軍省へ送る第三〇號書状一五號子何トカシテ御座之ヲ終出ハ日本

第三十課

海軍

195 47



五

二一

開始了

〇〇一
〇〇二
二〇四
〇〇三

(〇〇四七〇)

東

通

●

二十五通

機密 〇一〇〇七番電

發 第四兩連陸隊參謀長

宛 二八艇司令官(大津第一部長兼行)

通 艇長・人妻局長

現 艇長二八艇司令官部通電「マノクワリ」ニ連出サレ度

決定也。

「東海陸 本報開合々ノ為難也」

二六八

同日(一九四七年七月)三編

軍

第...
第...

196

人事

五二 贈 給 一八七二六 丁 二〇二〇

〇〇〇〇
〇〇〇〇
八八八九
九九三〇

香

作

〇

〇

王勇

第十信



東京通信隊 第二十一通信隊
第四通信隊 第二十三通信隊 第三通信隊

海防部 〇二二〇一五番 函分ノ二三四

第四南遣艦隊隊長

兼務者 大海軍監部第一艦 南西方面艦隊隊長

受領者 聯合艦隊司令部

第四南遣艦隊隊長 〇一二三五五番 艦長

一 從來艦隊編成表等ノ増補ニ関係セル方針ヲ改ム

(4) 「ピアク」地区ハ「ボスニツク」地区艦隊ヲ停止「ソリド」艦三

九八三・九九二・一〇一〇 四二四 一六二七〇(三) 海 軍

チ作戦基地與第一ヲ緊急基地トシテ之ヲ完成シ取敢ズ木材ニテ速
速同第二ハ情況ニ依リ中止ノコトニ隨軍領ニ交渉中

(四)「パボ」ハ作戦基地トシテ強化整備

(五)「サガ」地區ハ疎隔地ヨリノ砂利運搬用軌條測量ヲ快チ「パボ」
作戦基地ノ緊急基地トシテ二個飛行場ヲ急造整備ス

(六)「ハルマヘラ」及「セラム」地區基地増築ニハ極力努力ノ注入ニ快タント
スルモ「アラヒ」一箇二箇「カイト」一箇工事中ノモノノ外更
ニ二箇可能ニ及ハルマヘラ地區共各機管隊一隊宛増設ヲ必要トス

(七)「ラングール」地區ハ第一第二第三完成シ第四ニ着手中ノ處

第一第二第三ノ原ニ之ガ完成ヲ圖ルコトトシ第四ヲ一時中止ス

(八)「スンバ」地區ハ「メロロ」第一第二「ワインガツブ」第一第二
ニ止メ之ガ完成ヲ圖

三、機成飛行場及マノクワリ アンボン カウ各機成基地ノ防空線速完

備ノ爲四ノヲ機密第〇二〇〇一九番電ノ外更ニ防空隊五隊ハ乙一甲
又ハ附圖ノ機密塔法アリ度

一四分ノ三缺

(同) マノタワリ ソロン アンボン 及カウニ式磁氣探知機設置ノ爲大
立ノ一時轉用ノコトトス

(ハ) マノタワリ「ソロン」防備機所用器材ハ和丸ノ彼機ニ依リ電
ノ外全滅亡失セルヲ以テ「ヨカス」器材ノ分テ一時轉用ノコトト
スルニ付右「ヨカス」用器材ノ至急補充ヲ待度

(同) ターハン防備機所用未燃電線ニ對シテハ二十七時別機機地盤用電
マノタワリノモノヲ轉用。

一電機機密 四分ノ三未達

第拾五課

海

軍

197



五三 受領三〇三 四一〇四 電〇一六〇四 作

● 東 編・二十二編

● 二十三編A、四編編隊命令A・三編

機密電〇二一〇二五番電 四分ノ三

陸 國海軍連隊隊務課長

其航空基地ノ防衛及敵飛行機襲撃ノ爲電線探偵候ノ完成ヲ不可缺トス

ルニ付國海軍連隊隊務課長二七二六〇五番電(四月)ニ依リ一連三期

電線及南西方面探偵隊命令第三二五號(四月)機密第二三一七四九番

電ニ依リ夜間兵器ノ急造ヲ得座

四港灣水中防備

(4) マノタワリノ機雷敷設ノ取扱要綱四〇〇ノ五ノ一二〇番及三〇〇

通一八〇九 呂二B(五九〇五七)二一編

海軍

三六
十信
録註

米ノモノ一〇箇ノ爲右様書ノ準領及之ガ敷設用トシテ最長又ハ
米輕ノ一時懸置ヲ得度。

本電領分ノ一三三四號置布



全電
十位
印

海

印

人専長

課長

寄員

寺井

為

...

...

第十信

...

五三 受信始〇〇八四五〇 譯了〇九四六 (〇一四一) 一人

二五通

人事局・佐 鎮

大海參一部・二六根卜・養鷹

機密第〇二一一三八番電

四エP參謀長

二六根據地隊司令官ノ病狀ニ鑑ミ同官交迭迄小山(九九三)ヲシテ補佐セシメ度但シ赴任暫ク後ルルニ付了承ヲ得度。

一三四二

留口一五九〇五(二一)通

海軍

局長

課長

局員

寺井

孫

...

...

生...

二

...

...

九八六

〇三二

〇五五

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

第三...

● 内南洋方面部隊...

渡野部〇二一一四五番電

段 師團長 國... P長官 渡野...

一 P... 〇九四二... 艦上機八機大... 機一機來... 一二三五... 一五五〇

敵艦三隻巡洋艦二隻... 艦六隻... 不明五... 艦五隻巡洋艦七隻... 訂正ス

三 渡野通加

...

(4) P... 一〇〇〇... トン... 野油... (南石) 二〇〇〇... トン... 五〇

九六九 民三... (八九九五...)

海

軍

○トノ埋設油槽（貯油ナシ）被弾破孔十數ヶ所使用不能ノ見込（
 使用可能重油槽ハ差出七〇〇〇トノ貯油量六〇〇トノ但シ送油管
 被弾修理中）前露西工工作機械被弾ヲ約五分ノ一ニ改ム
 ⑤ P P 被弾修理中

第十信
録

海



局長

課長

局員

第十信課

親展

一九五三

受信 〇四二〇
譯了 〇九二〇
〇〇〇〇

(一九五三)

特情

青

聯合艦隊中

報

山口、大海參一部長

暗號軍機

機密第一〇三三七番電

先遣部隊指揮官

所機密第一〇三三七番電ニ関シ
五月中下旬我海空兵力ヲPK
B又ハ丁酉部ニ集中敵害ヲK
策セラルル重大戰機ニ於テ先

〇〇〇〇

AA (八九九五) 回通

海

軍

↓ 敵ニ暗号等ヲ上レル公報下大志令自斷電報ヲ慮ミ打込ハ何トモナカ

遠部隊 背水 繼 奏 前 卷 及
 補送 三 作 戰 二 分 割 使 用 中 止
 力 愈 分 散 所 謂 三 鬼 三 鬼 三 鬼
 造 不 徵 底 以 終 三 鬼 三 鬼 三 鬼
 際 大 英 斷 以 了 S 輸 送 作 戰
 一 時 止 諸 種 困 難 十 事
 情 大 奇 三 戰 量 時 恩
 ブ 集 中 三 戰 三 戰 三 戰 三 戰
 野 集 中 三 戰 三 戰 三 戰 三 戰

電信課 第十課

海軍

201

人事

五三 〇九二三 〇二三四 〇二三八



大連第一師・聯合艦隊司令部

中樞太平洋方面艦隊司令部・南滿洲方面艦隊司令部・第一海上機雷艇隊司令部・第二海上機雷艇隊司令部・第三海上機雷艇隊司令部

海軍省〇二一四四七番

第一機雷艇隊司令部

五月四日、海軍省決定ノ決断書閣下ニ呈送ニ付、同日ニ直轄セシメラレ
度宮城縣長官渡邊榮造君出陣前ノ贈給終了トバ右ノ内異川丸萬榮丸及榮
邦丸ハ南滿洲方面艦隊司令部〇二一四一番電ヲロボリソゴ及其ノ他贈
送ニ充當トシメラレ給支トキ見込

一五四二

四一四 一八九〇〇

海軍

202

執

人

局長

課長

局員

書記

庶務

第電
十一
號

三

三

三

三

人

急

急

急

急

急

急

急

一

一

海

軍

203



五
三
受領二〇三
調給〇七四〇〇
調了〇八二〇
龍〇一五〇四
作

● 東
● 延・通商通商局
● 國庫理務局各A・二十三號A

機密第〇三一七四二番

陸・G E F 参謀長

海 大津島一第長・G F 参謀長

該北方國然地地維波ハ取敢テ左記ノ外國Rヲ後附第〇二一〇一
ニ使リ實地ノコトト請度尙設條條ノ増減ニ關シテハ中央ニ於テ至急手
兩ノコトニ取計ハレ度
(4) ソロン「カイマオ」「ヨムホル」ガリ「ルンホイ」「リナ
ビト」ヲ作戦基地トシテ整備強化（G E F 後附第ニ九二一四三番）

海一八三〇 BニB) R R O R R (三二一)

海 軍

分
信
録

巻頭

同主ヲ人陸軍ノ第三ノ隊ニシテ「マダ」ノ海軍ヲ海軍省第三隊
ノ状況ヲ報告ス。

海

軍

0302
11
2000

作

五回 演義           作

● 三回・二十一回

● 五回・五回・十回・十三回A

● 一〇回・二〇回

二分、八二

● 西ノ本ノ演義ノ書名

● 西ノ本ノ演義ノ書名

● 西ノ本ノ演義ノ書名

● 西ノ本ノ演義ノ書名

● 西ノ本ノ演義ノ書名

● 西ノ本ノ演義ノ書名

海三回七三・二三六回
 海二回八一・一五五六五回・一一一海
 軍機

ノ出撃期滿等ヨリ判斷スルニ同時機ニ於テ艦隊部隊ガ「トマタ」
ノタラシ「方面」ニ出撃シ悉ク算亦大ナリ

ニ同海軍ニ於ケル竹輪團ニ對スル對空機銃ハ特ニ重要ヲ要スル處現機
軍艦並兵力ヲ以テシテハ多クヲ期待シ得ザルニ鑑ミ左ノ要領ヲ遵
テシテ

- (1) 海軍艦隊並機銃ヲ以テスル「トマタ」北東方面ノ檢閲機銃
- (2) 海軍艦隊機銃ヲ以テスル艦力ナル直轄
- (3) 月光ヲ以テスル夜間ノ攻撃
- (4) 出撃待レバ「ホーランド」方面ニ對スル機銃攻撃準備

海
軍

年
月
日

205

人事

五五 受 始 信 二〇五五 了 二二四七 電 〇二五三三

人軍一 事務令

親展

東京通信線

● 千 島 根 ▲

機密第〇五〇九四二番電

機密第〇五〇九四二番電

陸 北東方面艦隊參謀長

宛 大海参一部長 軍務局長

大海機密第〇二二〇五〇番電關聯

松輪派遺隊ノ獨立警備隊改編ニ關スル非公式ノ切ナル要望ニ關シテハ
既ニ御諒承ヲ得タルモ之ガ實現困難ノ理由ハ專ラ要員ノ關係ト承知セ
ル所現地作戰上ノ必要故ニ本隊ヨリノ作戰指揮及統率殆ト不可能ナル

通二九二四

呂二日 一 日 一 大湊

海 軍 一

第十信課

實狀ニ鑑ミ當艦隊トシテハ巨ムヲ得ザレバ現在ノ幹部ノミヲ以テシテ

モ獨立所轄トスルヲ有利ト思考シアリ

差當リ左案ノ編補職ノ上然ルベク編配慮ヲ得度

司令兼副長 分隊長 相澤（三九八四）

分隊長 松本（ホ七二六）

軍醫長 宮内（クニ〇二三）

主計長 高波（シ一七七一）

分隊長松本、副隊長相澤、軍醫長宮内、主計長高波

第十信課

海軍 2

206

緊急電

五五

五五

五五

五五

五五

五五

五五

五五

五五

五五

五五

五五

五五

五五

五五

五五

五五

第一機動隊參謀(大尉大佐)ト打合セノ通ウルシ島北半ヲ渡シ港
リタルシ一南半陸及クツル一島泊地ニ後留敷敷敷座ニ付至急聯合方取
計ハレ候 追テ敷設ニハ相宜制開ヲ要スル見込 爲念。

五二八五四

五二日

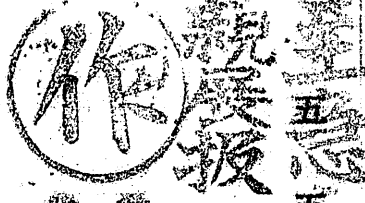
一五七一〇

海

軍

第十部

207



受信一八七一九〇

一八五〇

電〇二三六七

作

● 第四南遣艦隊 戸東 通・聯合艦隊口

● 機密第〇五一三一九番電

發 南西方面艦隊參謀長

通報 大海參一部長 大海參二部長

濠北方面航空基地築城ハ大海機密第〇四二〇五一番電ニ基キ實施ノ
コトニ取計ハレ度但シ「ラングール」「スンパ」等
右以外ノ地區ニ對シテハ機密第〇二一〇一五番電通り實施アリ度。

通二九七七

呂一日（一九五五〇）二十一通

海軍

第電
十倍
記録

208

ト

五六 受信一六二二 譯了一九三〇 電〇二八三二

一令・軍務
令副・人事
官房

●八五一空

●大 舞 領・十三航空艦隊

●人 事 周・機 人・吳 人・佐 人・舞 人・二八航空

機務

機密第〇六一一四五番電

當隊機密第二四一四三〇番電ニ依ル行衛不明者 大尉藤波正忠以下
十一名三月三十一日附函取認定ス

特殊任用進級具申進テ海軍上等飛行兵曹渡部秀和ハ海軍一等飛行兵
曹ノ誤ナリ。

通三六二五 呂一〇一七五九〇KG十通 海 軍

第拾信課

209

作

五 六 受領二一二五 了〇六五五〇 電〇二九九六 作
七 開始〇六三〇

東京通信隊
聯合艦隊司令部
機密地〇六一六二〇密電

五七航空基地

合時・航空
軍需・運輸

第十部

第一航空艦隊參謀長

大澤 第一部長 軍務局長

通報 聯合艦隊參謀長

第一航空艦隊機密地〇六一六一〇香電機密

艦隊新編制ニ伴ヒ機密運轉機密ノ設置ニ依ル機密補給ノ迅速確實化ヲ

計ルハ列下ノ急務ト認メラルルニ付當隊機密〇三一〇二五香電ノ付至

急務機密相成度

三三九九九 呂一〇一五五八五〇一五通 海軍

210

人

作

五七
● 〇〇〇〇〇〇〇〇
● 〇〇〇〇〇〇〇〇

● 〇〇〇〇〇〇〇〇

● 〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇

大津屋番頭〇四一八三五番頭照野
次期作職準備上要案者就等差料、各地區内輸送業務ニ關シテハ利用可
能船隻ヲ全額活用（所収ニ關シテ要員措置ヲ詳ク）經力集積ニ努メテ
度々改良迄至極致通知ヲ得度

通三九六八 月一日 〇一被通 海軍

第百十號

遠く明國等三項領事より消息を傳へて來り、且外國野蠻之輩、陸路海路
阻害の甚き處あり、

又、日本國一六〇〇年、風波甚しき故、一七〇〇年

西の國より來り、七五〇〇年

第十卷

海軍

211

人事

親長

五七

陸軍第一八〇〇

陸軍第一八三〇

陸軍第三二六二

陸軍兵備

● 二一

● 東京通信員

陸軍第一〇六二二〇三番

陸軍 南西方面艦隊参謀長

海軍 大本營海軍通信部長 海軍参謀長

大正十三年三月三十一日 海軍省 海軍大臣 齋藤實

陸軍省 陸軍大臣 荒瀬兼三

南西方面艦隊司令官 三三八 陸軍省 海軍大臣 齋藤実

海軍省 通信二三九 日一四八一九五五〇三十一番 海軍

第百一課

2/2

人車

親展



七 受領一七四〇〇 丁一八三〇 〇三二五七作・航本

● 南東方面艦隊隊員

● 聯合艦隊口・第一航空艦隊隊員

陸軍機密

機密第〇七〇九三二番電 二分ノ二

發 南東方面艦隊參謀

在 R R 舊第二五航空艦隊司令部ノ P P 集中ハ左ニヨリ實施ノコトニ機

行機隊指揮官ト打合テ了セリ

一 期日

(1) 五月八日ヨリ四日間 (R Rヨリ P Pニ集中) 十二日ヲ機備トス

(2) 五月十日ヨリ五日間 (P Pヨリ P Pニ空輸) 十六日完了ノ見込

ニ使用機數

通四三九五 呂一B(一〇〇九五K)五通放 海 再

第拾頁

電信
第十課

第一次及第三次 八〇一空 二機 第二次第四次 第一航空艦隊 第十一航空艦隊 各一機 ○七三〇 P P 設 (R R 着) 檢定時刻一六三〇 一七〇〇 (二一三〇 二二〇〇)

四 R R ニ於ケル補給量各機四〇〇立 (二時間ニテ補給終了ヲ要ス) 五 集中人員各機三五名 (手荷物五班以内)

六 空中輸送兵器其ノ他各機約二・五班

七 通信

(九) 使用電波晝間波八^九一五 夜間波五二五〇 電波轉換時ヲ〇五〇

〇 一七〇〇 トス

(四) 使用暗號書 多二九

(六) 呼出符號飛行艇目ビヘ三 八〇二空水上戦闘機隊ノ備ヲ使用 基地目ビオク。

東通註 本電(中)及三ナシ

海 軍

213



西一千

...

...

...

...

...

...

...



...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

海軍

2/5

人
長
長

員

王

平

第十

五
八

受信
始信
〇〇六一〇三四

了〇七〇〇
電〇三五四四

人軍一
事務令

五
通

ラバウル第二航空基地

聯合艦隊口・南東方面艦隊口・一航空艦隊口

機密第〇七二二五五番電

第二五航空艦隊參謀

宛 南東方面艦隊參謀

第五通信隊機密第〇七〇九三二番電

舊二五航戰司令部ハ固有隊員五九一内司令官及參僚三司令部附豫備

士官二轉勤發令済一及司令部トシテ臨増電信暗號員一三名總計五一

其ノ他五名ヲ有ス餘送人員物件ニ決定上必要ニ付舊第二五航空戰
隊司令部員ノP.F.集中ノ目的並ニ集中後ノ所屬至急通信ヲ得

通四六三〇

呂一B一四九四五〇一八番電

海軍

通志

五九八 受領 始 三三三八 了 〇八一〇 量 〇四〇二六 作・ 稿 本

● 四 續 集 下

● 軍令 第一 部・ 聯合 艦隊 下・ 海軍 方面 艦隊 下・ 二十二 號 下

● 續 集 〇八〇八一 五 番 號

● 第一 號 陸 軍 參 謀 長

● 第四 陸 軍 參 謀 長

左ノ 地點ニ 關スル 各 陸 項ニ 付 通 知 ヲ 得 度

ナリル オー シ ャ ン ホ ナ ベ ウ オ ツ シ エ ミ レ マ ロ ハ ラ ツ プ

ヤ ル ト

一 使用 可能 海 軍 隊ノ 狀 況

ニ 參 照 陸 軍 參 謀 長ノ 狀 況

五六一六〇 呂 一 日 一 一 〇 〇 九 五 陸 一 五 海 軍 一

郵 電 十 部 課

三、新設通信線路ノ狀況一、無線通信線路表(續前)及現有電報線表
 四、特殊線路ノ狀況
 五、最近ノ電報線路表

第十卷

海

軍

0321

216

作

局長

編纂

人名



第二十回

五八

受領一〇〇五

第五一〇第五 (〇三六五二)

作保

第五五五五五五五五五五

聯合隊、由西方面進軍、由東方面進軍、二〇二二二、八五五五五

第五五五五五五五五五五

五〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

竹點圖面中二〇三部隊(在六隊)中三△B格細官ノ指揮下ニ入ラ

シム

通四七三七 西二月(一九〇九年)五編

海軍

217

海軍 第五八九二 呂二日

（吳邊）

海軍

五日電令第一三號

七日電令指揮官ハ五月二十日頃迄ニ呂百盟潜水艦ナルベク多數ヲ「ナ」散開線（聯合艦隊所定）ニ配備シ得ル如ク整備ヲ促進スベシ。

潜水艦機密

機密第〇八一六〇〇番電

●大本營海軍部・聯合艦隊口

第七潜水部隊・呂號一一一潜水艦（佐 連）

緊急 親展

一〇 受信 〇〇八七〇〇 〇〇八三〇五 轉了 〇八四五 電 〇四四四三

課長 局員

赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂 赤坂

梅田 梅田 梅田 梅田 梅田

今作

第十信課

218

ト
3

陸 第二十六號陸軍部令旨
 一、日艦隊艦へ自艦上少クトモ五〇〇種ノ暗鏡ヲ要スルヲ認メ二八一
 三〇ハ〇五五ノ一九〇種内ニ入り種々新鏡ヲ加ヘフツアルモ其
 照未照鏡類ヲ生ジ居レリ故ニガムヲ製造トスル其性能小照鏡一
 枚暗鏡ヲ附シ較ノ暗鏡ヲ製造シノ日艦暗鏡ヲ買入スルヲ有利ト
 認ム

機密第〇八三一三七番

聯合陸軍部
 大務部一課・機密部四課・三課
 陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

陸軍部

第十部

第五二六三

陸軍部一〇〇九五号一五号

海

軍

二、右ニ照會奉返ニアリテハ、東海地方暗礁ハ種々小ナルヲ以テ、
 船ヲ夕且夜間行船難ト不能ナル船員船客ノ皆無事船ハ一區々又
 ハ、^大方面ニ懸念ヲ有ラズ、^大方有テ懸念ナシ。

第十信

海 電

219

局長

課長

司員

第十課

親展

受領一五四一五〇

一五四一五〇

一五四一五〇

作



聯合艦隊口・一海上國衛隊

海上護衛隊口・一海上國衛隊
中部太平洋方面艦隊口・一海上國衛隊
南西方面艦隊口・一海上國衛隊

機密第〇九〇八〇一巻電

第一機動艦隊參謀長

萬葉丸船團計四隻 日榮丸船團計三隻ハ何レモ十五日ヨリ發十七日
伊 着ノ後定ナル處當方之ガ護衛充當可能兵力ハ極越三隻程度ナ
ルニ付右船團ノ重要性ニ鑑ミ現ニ右船團艦中ノ海防艦並ニ六驅逐
隊ハ艦、電ハ引續キ護衛協方方針ニ配属アリ度
尙六驅逐隊ハ機動部隊ニ編入ノコト取計ハレ度。

通五四五〇

品一B(一七五九〇)一〇通

海

軍

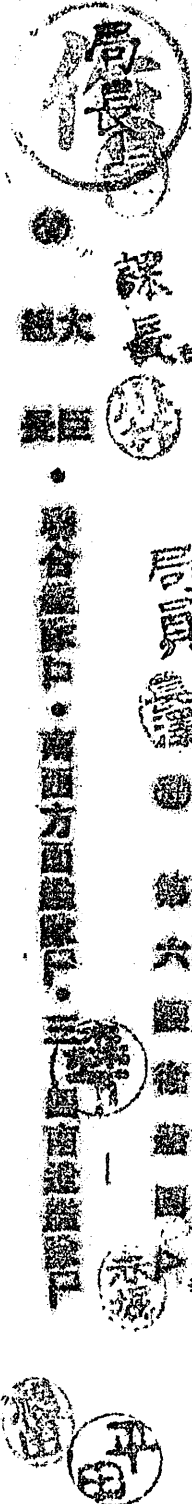
220

親展

人

一等 陸軍 〇〇五三三〇 陸軍 〇〇五四五 陸軍 〇〇五四九 俵保

課長 局長 司員 第六團衛隊團長 第六師團長 第六師團長



横書第〇九一七〇〇番電

一、竹野園部隊へ第一吉田丸 天津山丸 アツキ丸 但馬丸候へル〇着
二、六日敵潜水艇侵入直前之ヲ探知シ次ヲ潜望鏡ヲ發見直ニ攻撃ヲ加へ
タルモ效果ヲ確認スルニ至ラズ。

本報通社 サラ申ナルモ一應配付ス。

第五八〇二 第三日 五九〇五船 二十一日 海軍

第十信課

22

至親
親展

五九〇

受領開始
〇九一〇五〇

丁〇九三五

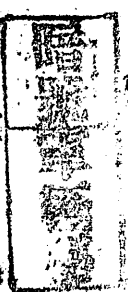
電〇四五五二

作

● 第二兩連艦隊

● 大海參一部・七六一室・二三機A・三二機A

機密第〇九一八五七番電



三R P 参謀長

二R P 機密第〇九一〇一五番電返

大海機密第〇八一二一〇番電ニ依ル「メナン」MM 機LA 行船圖
今ノトコロナシ。

通五五九一 呂三B)一五六一〇C)三一通

海軍

第十信課

222

人事

三三

受了給信

三三
二八
四三
〇七

電電電
〇〇〇
五五五
四一四
三一四

艦航作

政本

● 東 通・五 通・五七ノ基地
● 三 通

● 八リリニ一ノ基地

機密第一〇一三三〇番電 三分ノ二三三

一△ノ山田參謀

第一航空艦隊參謀長・P.P.P.參謀長・十一△ノ長官
大津參一郎長

三〇根參謀長・第一機動部隊參謀長

カ下ノ又兼地狀報告(通報)五月十七日見込左ノ通

五月二十二日以後戰國機約三〇機進駐可能爾後飛行場強靱性増加

通六七〇四・六七九〇・六二七〇 陸三〇(一五七一〇四)三編 海ノ大町(軍)

第十信課

第十信課

- 一、滑走路長サ一〇五〇米幅八〇米概成但シ長サ七〇〇米中央部六〇米ノ區域及滑走路兩端各長サ一五〇米幅一〇〇米（飛行機置場）ソイルセメント舗装完成
- 二、誘導路ハ滑走路ニ平行ニ幅二〇米（中央十米ソイルセメント）長サ七〇〇米ニシテ兩端滑走路ニ飛行機置場連絡其ノ他引込線飛行機置場ナシ
- 三、飛行機掩体無シ
- 四、防空壕階梯型^形二乃至三個約五〇名收容
兵宿舎ハ雜葺リ全部幕營（天幕ナシ）
- 六、通信施設 短移動程度持込ヲ要スルモ現物入手見込ナシ雜葺リP
Pノモノヲ有線管制線ニテ連絡使用
- 七、防空兵器 二十五耗機銃二聯裝六 二十五日完成機定ノモノ十二
輕高角砲四門二五耗二聯裝十二挺

海軍

ハ 基地兵器管轄ニ近シ
ソ 行場セメタルヲ以テ
ルハ 緊急ノ際ニ
メ 必要ノ際ニ
ン 必要ノ際ニ
ト 必要ノ際ニ
ナ 必要ノ際ニ
ル 必要ノ際ニ
モ 必要ノ際ニ
テ 必要ノ際ニ
以 必要ノ際ニ
テ 必要ノ際ニ
用 必要ノ際ニ
ノ 必要ノ際ニ
為 必要ノ際ニ
ス 必要ノ際ニ
シ 必要ノ際ニ
ル 必要ノ際ニ
儀 必要ノ際ニ
ヲ 必要ノ際ニ
裝 必要ノ際ニ
備 必要ノ際ニ
ス 必要ノ際ニ
ル 必要ノ際ニ
モ 必要ノ際ニ
ト シ兵器ハ空
ト ス

七 アイライガドブス共ニ左記緊急措置方御取計ヲ得度

(イ) アイライガドブス基地ニ對スル電探電路ノ阻線

(ロ) ガドブスニ當リ戦斗機用電探ヲ裝備スルモノトシ兵器ハ空
ト ス

(ハ) 三〇根據地隊司令部二六航戰司令部間有線電話ノ設置

(ニ) 艦艇一三〇機二六航戰一ノ通信兵器ノ整備

(ホ) 若地兵器タル車輜類ハ勿論運搬車ガレリ一等ハラオ方面ニ於テ
融通シ得ベキモノナシ聯合艦隊命令作第七六號ノ人員物件現地
着時機ノ促進

(ヘ) アイライガドブス P P P ニ對スル防空兵器ノ増強 P P P 探照燈

ノ整備(二六航戰既要致)

第十信課

海軍

備考 東京至清走路ハ一五〇〇米ニ延長す。

東亞通商本館出陣日ナル日ニ至ルノ種別待テトリアリ

電信課

海

軍

0332

肉報
3/2
18/19
13/5
2/5

人事局長

謀長

電

第十課

五
一一〇
一一〇
開始〇五四〇〇
丁〇六一五
電〇四九一九
令

人事局

軍令部一部・聯合艦隊司令部・海軍人事部

機密第一〇一五二二番電

第一航空艦隊參謀長

上野少將本日テニアンニ於テ着任

新六一航空戦隊司令部ハ全部舊第二十五航空戦隊司令部關係員ヲ以テ
編制セラルル事定ナラバ取敢テ全員ヲ營司令部附ニ任命方至急取計ヲ
得度ハ幕僚ハ横領附時准ハ舞領附下士官兵ハ第三補充部ニ編入サレ
リ

通六一六八

呂一B(一〇〇九五K)五通海

軍

224

Handwritten marks and stamps on the right margin.

五 一 〇 受 信 一 〇 三 一 〇 一 〇 五 五 電 〇 五 〇 八 九 作 保

軍 務 局

大 海 軍 一 部 上 陸 部 隊 日 支 那 支 隊 日 支 隊 支 隊 日

機 密 第 一 〇 一 七 一 六 番 電

受 高 警 參 謀 長

臺 灣 海 峽 機 密 壇 ニ 對 ス ル 一 般 船 舶 航 行 禁 止 事 然 ル ベ ク 取 計 ハ レ 度 。

通 六 二 〇 〇 五 一 日 (四 七 〇 五 電) 高 警

海 軍

第十信課

225

人事

五二二 受信開始 〇八五〇五 丁 〇九三五 電 〇五四七七 作 保

海上護衛總口・丁直接護衛部隊△

機密第一一〇九一四番電

受信者 二五二司令官

受報者 五三〇司令官、F Y P 參謀長

東京湾南方航路「サイパン」東京湾間一ノ船団護衛ハ本府直接護衛部隊へ乙丙丁及戊一ノ擔任事項ト定メラレアリ貴機密第一一〇四三〇番電ノ成案ハ適當ナラズト思料又丁直接護衛部隊所属艦艇ニ對シ第二海上護衛隊司令官ヨリ發セラレタル電令ハ錯誤ト認メラルルニ付速ニ取消サレ度。

通六七〇六 呂三三、呂三三(十) 印 (横通)

海軍

電信課 第十課

226

人事

一三三 受領〇〇八〇五 了〇九〇〇 電〇五九七四 作

二六根△・三二根△・七三二空
一航空艦隊P・四南遠艦隊P

機密第一一二〇〇五番電

設 南西方面艦隊參謀長

宛 4 B D 村山參謀 大佐 三ノ下

工運工ノ海陸軍航空基地ハ概ネ左ニ就リ次期作戦ニ使用決定ナル
ニ付速ニ(出来得レバ南非基地後廻シ)二六△B△ト連絡現地視察
ノ上急速整備(施設燃弾通信)促進ニ努メ隨投セヨ右ノ爲隨投決定
廻ルルモ兼支ナシ
一、作戦(展開)基地(ガレラ)(南北)及(ミチ)陸攻(陸爆)約三

通七〇七四 呂一B・ローラ六(一〇〇九五K)五通 海 電

第十信課

○渡（約四〇〇名）

ニ集中（符機）基地「カウ」及「ワシレ」戰鬥機約六〇機（約二〇〇名）

与通信施設ニ關シテハG E F機密第一〇一六三五番電（宛二六△B）ニ參照。

（本種機密第一一一一三〇番電作成書）

第十信課

海軍